

**「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方  
＜平成21年諮問第16号＞答申(案)」に対する意見募集の結果(概要)**

---

平成23年6月6日

# 1. 意見募集の概要

「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方」＜平成21年諮問第16号＞

## 1 背景

- 情報通信審議会情報通信政策部会は、平成21年8月26日、総務大臣から「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方」について諮問を受け、通信・放送の融合・連携環境における標準化政策に関する検討委員会を設置し、計19回開催。
- 平成23年2月10日、情報通信審議会情報通信政策部会は、通信・放送の融合・連携環境における標準化政策に関する検討委員会からの報告を受け、「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方＜平成21年諮問第16号＞答申（案）」を取りまとめ、総務省ホームページ及び電子政府の総合窓口において幅広く国民からの意見募集を実施。

## 2 意見募集期間

平成23年2月11日（金）～3月14日（月）、同年3月31日（木）～4月20日（水）

## 3 意見募集の結果

個人1、民間事業者等3件の意見提出。

## 2 提出された主な意見

- 日本がグローバルな標準化活動を行う組織に参加していくことに高い優先順位をつけることは、日本が世界市場で良好な立場を得ることとともに、世界市場の成長に日本が貢献する点において非常に重要な点である。  
【インテル】
- 3章（P42）には、「フォーラム標準としてスピード感を持って標準が策定され、その後、国際標準化機関において標準化される過程が多くなっており、フォーラム標準に対する戦略的な関与が重要」とあるが、現在、ICTの重要な標準化作業の多くは「フォーラム」で行われており、グローバル標準を規定する多様な組織でICTの標準化を行うことがICT分野の標準化に強さを与えている。【インテル】
- ICT業界には、フォーラムやコンソーシアムが策定し、世界中で採用、使用されている規格が多くあり、グローバルなICT標準は、ISO、IEC、ITU等のデジュール標準化機関で作られた規格にとどまらないという総務省の見解を支持する。【ITI】
- 総務省が答申（案）で示したグローバル標準の定義は、ITIが定義する以下の特徴と一致する。  
【ITI】
  - ・ グローバル標準は、グローバル市場のニーズに幅広く対応すること
  - ・ グローバル標準は、自発的に世界中で導入、実装されることにより妥当性が実証されていること
  - ・ グローバル標準は、透明性があり、かつ全ての事業者参加の下定められる業界主導の標準化プロセスから生まれること
- ITIは、グローバル標準の広義の定義において、技術革新と成長を刺激するため以下の点から重要であると認識する。【ITI】
  - a あらゆる種類の標準化団体から規格が出ることで相互運用性の向上が促進されること
  - b 標準化団体の多様性により、ICT業界はタイムリーに市場の要求に対応することができること

## 2 提出された主な意見

- フォーラムやコンソーシアムにおいてグローバル標準が広がりを見せる中で、ITIは、日本企業の利益が考慮されるようICTフォーラムやコンソーシアムに日本の産業界が積極的に関与する点について同意する。  
【ITI】
- 答申（案）P46中、表3 ITU、欧州連合における「オープン標準」の定義では、オープン標準定義としてEIFバージョン1.0を参照されているが、これは2010年12月16日欧州委員会においてEIF2.0の26頁セクション5.2.1に示されている内容に置き換えられているのでご注意ください。【ITI】
- 既存の標準を用いることにより、不必要な努力により重複した標準を回避し、国際相互運用性を高め、ひいては開発過程の効率性の促進が可能。グローバルな標準化に対する人為的な障害は避けられるべきであり、グローバルな標準化組織への参加は奨励されるべきである。【IEEE】
- IEEEはWTO/TBTが国際的に定めた標準化の方針に従うグローバル標準組織であり、その方針も厳密な手続きに則っている。IEEEは標準化作業において作業において様々なフォーラムやコンソーシアムのプログラムが関わることを支援しているが、IEEE自体はフォーラムあるいはコンソーシアムではない。  
【IEEE】
- IEEEは、ISO、IEC、ITU等の正式な国際組織を越えてステークホルダーとともに国際的な標準化組織への日本の参加の増加を図るという総務省の提言を強く支持する。  
【IEEE】
- 日本の技術専門家は、グローバル規格が開発される場でアイデアを分かちあう責務があると信ずる。またそのような参加を通じて、日本初のイノベーションはグローバルな市場開発と確信に寄与しつつ、最も効果的にグローバル標準に組み込まれることになるだろう。【IEEE】

## 2 提出された主な意見

- 「図5 代表的なデジュール標準とフォーラム標準の策定プロセスの概要」におけるIEEE規格の策定プロセスの説明中、WG（作業部会）による規格素案の作成では、75%以上の賛成ではなくWG案はWGによって定められたルールにより承認される。

【IEEE】

- 「図5 代表的なデジュール標準とフォーラム標準の策定プロセスの概要」におけるIEEE規格の策定プロセスの説明中、スポンサー投票のスポンサーの定義が異なる。IEEE内で技術面、開発面、標準の維持管理等の責任を持つグループである。また、スポンサーは、IEEEによって定められたルールに従い、関心のある団体と実質的に影響を受ける団体がバランスをとって投票できるよう確認をしながら、その標準案への投票に責任を持つ。75%以上の投票と75%以上の賛成で承認となる。